

会 議 録

会議の名称		令和８年度 第１回つくば未来塾運営会議		
開催日時		令和８年（2026年）６月18日（木） 開会 午前10時 閉会11時		
開催場所		つくば市役所5階 501会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中山 正巳（座長）、永井 英夫（副座長）、岡田 真樹、 倉持 勝男、長谷川 清恵、増沢 喜良		
	その他	なし		
	事務局	課長 澤頭由紀子、参事 山口健次、 課長補佐 瓜阪恵理名、係長 松橋千栄、主事 染谷彩乃、 社会教育主事 柴崎英二、地域連携教育指導員 酒井和宏		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	なし
非公開の場合はその理由				
議題		・ つくば未来塾事業概要 ・ 令和７年度実績報告 ・ 令和８年度事業計画		
会議次第	1 開会			
	2 主催者挨拶			
	3 委嘱状交付			
	4 委員及び職員紹介			
	5 座長及び副座長の選出			
	6 議事			
	(1) つくば未来塾事業概要			

	(2) 令和7年度実績報告 (3) 令和8年度事業計画 7 その他 8 閉 会
	<審議内容> 1 開会 事務局（松橋係長）：それでは定刻となりますので、ただいまより、令和8年度第1回つくば未来塾運営会議を開催いたします。 なお、この会議に関しては、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第3条に基づき、公開とします。会議録については後日、つくば市ホームページに掲載いたします。皆様どうぞよろしくお願いいたします。 2 主催者挨拶 事務局（松橋係長）：では初めに、つくば市教育局生涯学習推進課長の澤頭から御挨拶申し上げます。 事務局（澤頭課長）：皆様おはようございます。つくば市教育局生涯学習推進課課長の澤頭です。委員の皆様におかれましては、御多忙のところ、令和8年度第1回つくば未来塾運営会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。 このつくば未来塾でございますが、市内の全中学校及び義務教育学校後期課程に学習チューターを派遣し、生徒一人一人の学びを支えながら、学習習慣の確立、基礎学力の定着、そして、学習意欲の向上につなげていく取組でございます。学校現場だけでは手が届きにくい個に応じた学びを補完し、子供たちの学びの基盤を地域と共に支える点に、本事の大きな意義があると認識しております。

昨年度の実績といたしましては、延べ 200 回、計 377 時間の実施となりました。1,803 名の生徒が参加いたしました。アンケートでは、生徒の 8 割がこれまでわからなかった問題がわかるようになったと回答しており、また、教職員の方からも、教員とは異なる視点での個別支援の有効性について、96.3%という高い評価をいただいております。こうした成果は、関係する皆様の御尽力の賜物でございます。改めて感謝申し上げます。

一方で、生徒が自ら質問することの難しさや、短期的な意欲の高まりが日常の学習習慣の定着にまで十分に結びつききれていないといった課題も見えてまいりました。成果を確かなものとして積み上げていくためには、実施することそのものに加え、学びの質を高める運営上の工夫が一層求められていると受けとめております。

こうした点を踏まえまして、令和 8 年度は学校の実情を尊重しつつも、主として 3 点に重点を置き、取組を後押ししてまいりたいと考えております。

第 1 に、生徒とチューターの間に、必ず対話が生まれる仕掛けを工夫しまして、未来塾を自習の場にとどめない学びの場としていくこと。

第 2 といたしまして、継続的な関わりを通じて信頼関係を育み、生徒が安心して学び直せる環境を整えること。

第 3 に、事前オリエンテーションを通じて支援の質を高め、チューターの関わりを組織的に高めていくこと、この 3 点を重点的に取り組んでいきたいと思っております。

また、今年度は予算の縮減という難しい局面もございますが、限られた条件の中におきましても、子供たちに質の高い学びをいかに届けるかを軸に、未来塾に一層の付加価値を生み出せるよう事務局として、運営の改善に努めてまいりたいと思っております。

本日は、昨年度の実績報告及び今年度の計画について御説明申し上げたいと思っております。委員の皆様におかれましてはそれぞれ専門的なお立場から、

忌憚のない御意見御助言を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委嘱状交付

事務局（松橋係長）：はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、委嘱状を交付いたします。委嘱状の交付ですが、委員の皆様の上に配付させていただいております。お名前など御確認いただき、不備がある場合は、事務局までお申し出ください。

4 委員及び職員紹介

事務局（松橋係長）：続きまして、委員の皆さんに自己紹介をお願いしたいと思います。名簿の順に、岡田委員からお願いいたします。御発言の際は、マイクを使っただきたいと思います。お名前を最初をお願いします。

岡田委員：つくば市 PTA 等連絡協議会理事の岡田真樹と申します。今年度からつくば市 PTA 等、「等」がつくようになったのでここだけ訂正をお願いします。PTA 以外の学校、サポーターの方とかも参加できるようにということで、今年の総会で決まって「等」が付くようになりました。普段は豊里学園、豊里中学校の保護者として PTA として活動しておりますので、皆様よろしく願いいたします。

倉持委員：青少年を育てるつくば市民の会会長の倉持と申します。未来塾の方は2年目になりますけども、引き続きよろしくお願いいたします。

永井委員：おはようございます。名簿で言うと5番になります。つくば市学校長会の副会長を務めております学園の森義務教育学校の校長の永井英雄と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

中山委員：はい名簿の2番になります、つくば市青少年相談員連絡協議会会長の中山でございます。こちらのつくば未来塾に関しましては、結構長くから、

委員をさせていただきます。

長谷川委員：おはようございます。私は名簿の4番のつくば市地域学校協働活動推進員をしております長谷川と申します。学習チューターとしても、8年ほどやっておりますので、今日も楽しみに参りました。よろしくお願いします。

増沢委員：名簿の6番ですけれども、教育局学び推進課、学校教育政策監をしております、増沢喜良と申します。市内の学校の教育活動を支援する役割を担わせていただいています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（松橋係長）：ありがとうございました。続いて事務局の自己紹介を行います。課長からお願いします。

事務局（澤頭課長）：改めまして課長の澤頭です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（山口参事）：参事の山口といいます。よろしくお願いいたします。

事務局（瓜阪課長補佐）：皆さんおはようございます。課長補佐の瓜阪です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（柴崎社会教育主事）：今年度より社会教育主事を務めております。柴崎英二と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：指導員の酒井です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（染谷主事）：生涯学習推進課主事の染谷と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（松橋係長）：同じく、生涯学習推進課地域連携係の係長の松橋と申します。今日はよろしくお願いいたします。

では続きまして資料の確認を行います。資料は配付資料一覧のとおりとなっておりますが、過不足がありましたら事務局までお申しつけください。

5 座長及び副座長の選出

事務局（松橋係長）：では次に、座長の選出に移ります。令和8年度つくば未来塾運営会議開催要項第5条の規定により、座長及び副座長は委員の互選により定めると規定されております。座長及び副座長の選出方法等について、御意見はございますでしょうか。特に無いようですので、事務局案にて、つくば市青少年相談員連絡協議会会長である中山委員に座長を、学園の森義務教育学校の校長を務められている永井委員に副座長をお願いしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは中山座長、副永井副座長席の移動をお願いいたします。では中山社長と永井副座長より、一言御挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いします。

中山座長：はい。改めまして、座長に就任させていただきます。中山でございます。青少年相談員連絡協議会、もうかれこれ30数年やっておりまして、こちらのつくば未来塾、最初は、つくばみらい市じゃないよねというぐらいの名前ちょっとね、つくばみらいなんていうと、隣の市のように感じてしてしまったこともありましたが、もうすっかり慣れてきた名称だなというふうに思っております。私たち、青少年相談員がやっていることとはちょっと違う内容でございますけども、子供たちの学習意欲の向上の役に立てば本当に良い活動かなというふうに思っております。実りのある成果を得ることが一番大切なというふうに思っております。私たちは無力でございますけども、どうぞよろしくお願いします。

永井副座長：副座長を務めさせていただきます。学園の森永井でございます。よろしくお願いします。未来塾なんですけれども、かなり長い歴史があって、そういった中で、学校現場としては本当にありがたい事業で、特にうちの学校なんかは子供の人数もたくさんいますので、そんな中で、学びに向かう力であったりとか、基礎学力の定着などに関しては、日頃から授業等で職員が頑張っているところなんですけど、それでもなかなかカバーしきれないような部分を、こういった事業がありますので、有効に活用させていただいております。とて

も素晴らしい事業なので、今後も継続して実施できればなあって学校現場では思っているところです。副座長ですが、学校現場の現状等についてお話できればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（松橋係長）：それではここからの議事進行につきましては、中山座長にお願いいたします。

6 議事

(1) つくば未来塾事業概要

(2) 令和7年度実績報告

中山座長：はい。それでは次第に従いまして議事に入らせていただきたいと思います。議事（1）つくば未来塾事業概要、議事（2）令和7年度実績報告につきまして事務局より説明をお願いします。

事務局（柴崎社会教育主事）：はい。事務局の柴崎でございます。

それでは、皆様お手元のつくば未来塾事業概要に基づきまして説明をさせていただきます。

まず、つくば未来塾の目的と形態、実施の形なんですけども、本事業は、大学生や地域住民の方々を学習チューターとして学校へ派遣し、生徒の学習上のつまづきを解消することを目的としております。対象は、市内全18校に通う7年生から9年生。いわゆる中学生の希望生徒になっております。指導内容なんですけども、国語、社会、数学、理科、英語の五教科を中心としまして、生徒が持参した教材の自習をしているところを、チューターが個別にサポートするというような形で行っています。実施の時期なんですけども、基本的には夏季休業中の集中的に実施するものと、あと9月から1月にかけて、平日の放課後の2つの期間がメインになっているところです。各学校の実態に応じて、1回あたり1時間から3時間程度、バランスよく設定されているような形になっております。学習チューターの皆様につきましては、教員志望の大学生、あとは

地域貢献に熱意のある一般の方々が主になっております。今年度は、5月8日から6月5日にかけて募集の方を行いました。活動開始に当たりましては、生徒への接し方や、あとは心構え等を共有するために、7月上旬に、事前オリエンテーションを実施する予定でおります。以上が事業概要についての説明になります。

続きまして、令和7年度実績報告ということで、令和7年度事業実績報告書、こちらの資料に基づきまして説明をさせていただければと思います。

まず1ページ目、実施実績と経年変化のところなんですけども、まず資料1ページの実数と経年変化のところを御覧ください。昨年度の実施延べ回数は200回、実施延べ時間は377時間となりました。令和6年度には219回、379時間、となっておりますので、比較すると、わずかに減少はしているんですけども、概ね計画通りに推移しているかと思います。参加生徒数については、延べ人数で7,863名、実人数では、1,803名の生徒が未来塾を利用いたしました。学習チューターの登録状況ですが、昨年度は152名の方に御登録いただきました。その内訳は、筑波大生・筑波大学院生72名、他の大学が14名、そして一般の方が66名になっております。学生による若い視点での支援と、地域住民の方々の豊かな経験による支援がバランスよく組み合わさり、本事業を支えていただいております。

2ページに移ります。予算の執行状況になります。中段真ん中、歳出の下の方に、当初予算額の合計493万2,000円に対しまして、決算額が403万7,354円。執行率は81.86%となっております。この歳出の主な内容としましては、学習チューターへの謝礼である報償費が355万6,300円。活動中の事故に備えた傷害保険料が7万8,100円。そして各学校への事務用消耗品やテキスト代の支給が約38万円となっております。財源については、国及び県の補助金を活用しており、昨年度は272万6,000円の交付決定を受けました。補助率は対象経費の3分の2となっております。

続きまして、3 ページの昨年度のアンケート結果の分析に移ります。

まず1 番目、生徒の学習上のつまずきの解消に関するところになります。学習上のつまずきの解消に関しての生徒へのアンケートでは、80.7%が、これまでわからなかった問題がわかるようになったと回答しており、昨年度は82%だったのですけれども、引き続き高い水準を維持しているかと思います。具体的な分析結果としましては、生徒からは、「少人数の個別対応だったのでその場で質問できた。」、「数学の途中式を丁寧に教えてもらえた。」といった声が多く寄せられました。教職員からも、学習チューターによる支援は、生徒のつまずき解消に有効であると、88%が回答しており、基礎的内容の定着に一定の成果が見られるかと思います。

続きまして2 番目、学習意欲の向上のところになります。集中して意欲的に学習を進めることができたかという問いには89.7%の生徒が肯定的に回答しています。「家よりも集中できた」、「友達と一緒に取り組むことで意欲が高まった」といった意見が見られ、学校という場に学習チューターという外部の刺激が加わることで、良好な学習環境の整備に寄与していると分析しております。

続きまして3 番、学校と地域の協働連携に関するアンケート結果ですが、教職員へのアンケートでは、教員以外による学習支援は、生徒にとって有効だと思ったかという質問に対し、96.3%という極めて高い評価をいただいております。学習チューターからも、「生徒の成長を間近で見られた」、「自身のキャリア形成につながった」との声が100%近く寄せられており、学校と地域が相互に信頼関係を深めながら、生徒の学びを支える体制が構築できていることを確認いたしました。

最後に課題、あとは改善の方向性になります。成果の一方で、分析を通じて明らかになった課題もあります。1 つは、意欲の向上が必ずしも日常的な学習習慣の定着に結びついていないという点です。学習習慣の定着を感じている生徒は75.6%にとどまっており、短期的な取組みをいかに家庭学習へ接続させる

かが課題になっております。また、自分から質問することが難しい生徒への働きかけや、真に支援が必要な生徒の参加促進についても、引き続き工夫が必要であるとの指摘が教職員やチューターからなされています。これらの成果と分析された課題を、この後御説明いたします令和8年度の事業計画に反映させて参ります。実績報告については以上となります。

中山座長：これらの件につきまして何か御質問等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。はい。岡田委員どうぞ。

岡田委員：御説明ありがとうございました。生徒の方延べ人数であるんですけども、割合は把握されるのでしょうか。されないのでしょうか。

事務局（柴崎社会教育主事）：学年の割合でしょうか。

岡田委員：課題の方に参加促進というのがあったので、参加されてない方も、やっぱり生徒が何人かいるのかなというのがあるので、参加率とかそういったところの方の目安もちょっと必要なのかなと感じましたので。

中山座長：長谷川委員、学習チューターをやってらっしゃる中でいかがですか。

長谷川委員：参加率なんですけど、私の肌感覚では、1割2割という感じですかね。ただ、みんな自分で自発的に来ている子が多いので、そこは本当に、取り組みが素晴らしいなあとと思っています。今、私、この課題の中で思ったんですけども、学習支援が必要な生徒への参加促進っていうのは本当に難しいところで、この子は間違いなく来た方がいいっていう子はいっぱいいるんですけども、そういう子に限って、お家に早く帰りたいんですね。私、中学校でも支援員をしているので、私がこういうことをやるから来るといいよっていうことも何回か言ってるんですけど、「お家帰りたい。」っていう。あとはお母さんに無理に言われてきましたって子は、早く帰っちゃいますやっぱり。実はもう令和8年度始まっていまして、昨日もある中学校で、チューターに行ってきたんですけども、そこに本当に来た方がいいっていう子がちゃんと来たんです。もうみんな先生もみんな、行った方がいいって言われた子がちゃんと来たんで

す。その子は、静かに取り組んでいたんですけど、女の子と一緒にやってたんですよ。多分、たまたま席が隣だったのかもしれないんですけど、女の子と一緒に座っていて、「また来る？」っていう話を女の子として、「行きますよ。」みたいな話をして「わかった。」みたいな。ここからつながっていくのかなっていうのもありました。大人が「来なよ。」って言っても、お家に帰りたい、ゲームしたいっていう子もいる中、お友達同士で誘って来るっていうのもあるんだなっていうのは感じました。9年生なんか特に、少しずつ気持ちが向いていくんじゃないかなと、期待はしているところです。

中山座長：はい。ありがとうございます。現役の学習チューターでございますので、長谷川委員がおっしゃられたように、支援が必要な子供が帰っちゃう。家に帰って、何するわけじゃなく、過ごしているのが現状かなと思いますので、親御さんに何かPR、こういう事業やるんだから、参加してらっしゃいというようなPRの何か機会があった方がいいのかなというふうに思います。学校で何をやってるか分かんないっていう親もたくさんいらっしゃるでしょうから。

長谷川委員：学校としては、スクリレで、この期間にやりますよってお話があって、あとは例えば3者面談ですとか2者面談などで、こういう取り組みをしていますのでということを直接、親御さんにおっしゃってるところなのかなと思います。多分お母さんも、促すのだと思うんですが、本人のやる気次第なんだろうなっていうところがあって、本人がいかにやる気を出してくれたら、そこにどうやって繋がるのかなというのはやっぱり学習チューターが分かりやすく教えてあげるってことが一番いいんだらうなっていうのは感じています。

(3) 令和8年度事業計画

中山座長：それでは、令和7年度事業報告について何か御質問ございますでしょうか。無いようでしたら、次に進めさせていただきたいと思います。それでは、令和8年度の事業計画について、事務局の方から説明の方をお願いします。

事務局（柴崎社会教育主事）：はい。では、先ほどの岡田委員の質問なんですけども、一応、全生徒数ですと 6,689 人いる中で、参加生徒実数が 1,803 だったので、約 27%の生徒が一応参加はしているという形ですね。逆に残り 73%が参加していないというような現状があるようです。資料の 1 ページの下から 2 番目のところ、生徒関連を御覧いただければと思います。

次に移ります。令和 8 年度つくば未来塾の事業計画という資料の方御覧いただければと思います。

まず 1 番目、予算措置とあと実施規模の適正化ということで、今年度の予算措置についてなんですけども、本事業は国、県の補助金と市の一般財源により運営されておりますが、今年度は財源の大きな柱である国、県からの補助金が、前年度と比較しまして、約 35%の大幅な減額内示となっております。この予算状況を受けまして、今年度は事業全体の実施規模を縮小せざるをえない状況となっております。具体的には、各学校における年間の実施、計画時間について、昨年度の基準から 3 割程度の削減を各校にお願いしているような状況です。限られた予算枠の中で市内全 18 校での実施を継続しつつ、より効果的、効率的な運用を目指して参りたいと思います。

2 つ目としまして、令和 8 年度の重点方針として先ほど課長からもあったんですけども、質を高める学習支援の転換ということで、実施時間が限られるからこそ、今年度は支援の密度をより重視しまして、単なる実習の場ではない、必ず対話が生まれるような学習支援への転換を図れるように、学校にも働きかけていければというふうに考えております。

具体的に以下の 3 点を重点方針として、掲げていければと思います。

まず 1 点目なんですけども、対話を必ず仕組みづくりということで、質問が苦手な生徒、また自ら課題を見つけるのが難しい生徒もおりますので、質問をカードに書くとか、紙に書いたり、あと質問タイム、その話をする時間とか、そういったものを設定して、全員が 1 回はチューターと対話できるような仕組み

みを学校に投げかけていければというふうに考えております。

2点目は、幅広い生徒への着実な参加促進ということで、先ほど長谷川委員からもありましたが、真に学習支援を必要としている生徒に支援が届くように、教務主任の先生や担任の先生から子供たちにもちょっと声をかけていただきまして、あとはもしかしたら先ほどあったように、友達同士の付き合いとか、そういったところで、つまずきが見られる生徒が参加できるような形を可能な限り取れるように、学校の方にも働きかけていければと考えております。

3点目になります。チューターの皆様の継続配置による信頼関係の構築についてなんですけども、今年度予算の削減によってですね、継続して同じチューターさんを同じ学校に配置するってことはなかなか難しい状況もあるんですけども、先生方にとっても、あとはその生徒の皆さんにとっても、同じ人が来るっていうのは安心感に繋がる場所もありますので、可能な限り、継続的に配置できるような形をとっていければというふうに考えております。

続きまして、今後の予定につきましては、もう既に5月から6月にかけて学習チューターの募集を行っておりまして、7月1日に、筑波大学の方で、事前のオリエンテーションを開催する予定となっております。こちらのオリエンテーションでは、短い時間なので限られた時間の中で、生徒の意欲を引き出し、例えば家庭学習つなげるための接し方とか、最初にその声をかける、何かきっかけづくりといいますか、そういうところも含めて、ワークショップ等を通じてお伝えする予定になっております。

事務局からの説明は以上となりますが、予算規模が縮小する厳しい局面ではあるんですけども、本事業が生徒の学びを支える貴重な機会であり続けられるように努めて参りたいと思います。また委員の皆様には専門的なお立場から御意見御助言を賜れば幸いです。よろしくお願いします。

中山座長：予算等厳しいのかなというふうにちょっと見させていただいたんですが、委員の皆さん、何か御質問ございますか。はい。永井委員から。

永井副座長：すいません、予算措置のところでちょっと質問なんですが、見方がわからなくて、変な質問なるかもしれないんですけど、昨年度の当初予算が441万9,000円ですか。今年度が440万じゃないですか、先ほど3割ほど削減されるってということで厳しいというお話だったんですけど、これだけ見ると報償費なんかはそんなにこう減ってないような気がするんですが、これってどういうことなんですか。

事務局（柴崎社会教育主事）：あくまでもその当初の予算ということでその交付金額等を見込んだ金額というのがこの483万4,000円になっているかと思います。こちらで見込んではいたんですけども、当初1校当たり90時間や100時間のチューターの活動時間を割り当ててはいたんですけども、実際（2）歳入のところ、令和8年度県内示額ということで、この199万8,000円、全市町村一律35%の削減ということで、当初見込んだ金額よりも、減っている。減っている金額は確かにここではちょっと表れていないので、非常に分かりづらくなってしまっているかとは思いますが、松橋係長補足をお願いします。

事務局（松橋係長）：はい。松橋です。補足なんですけれども、この当初予算は先ほど柴崎の方からお伝えしたように、去年の時点の見込みなんです。この報償費とか需用費の3分の2を県、国の補助金で賄う予定でいるんです。ですが、その補助金が減ってしまっているんで、減った範囲内で市から出すのは3分の1のままで全体を縮小して、予算は執行しなければいけないという会計規則がありますので、一応予算としてはとってはあるように見えるんですが、使い切らないで、実施するっていうルールに基づくというものになります。

永井副座長：はい、ありがとうございます。良く分かりました。それに関連してなんですが、昨年度とか、前の執行率なんかを見ると、8割程度かなと思うんですよ。今年予算が削られるということで、それを考えても、昨年度のようなことはできないのかなって思ってます。でもそんな中でもやっぱり需要は、うちの学校に限らずいろんな中学校であると思うんですね。1月の終わりまで

が期間ですよ。例えば 11 月 12 月辺りの段階で、この学校はあまり執行されてない、予定もあんまりない。そういった場合に、ある程度予算執行できるような感じで、もうちょっと欲しい学校に回すとか、そういったことはあるのか、そういうところでやっぱりできない、各学校である程度予定されたものでもやってもらう、その辺りっていかがなんですかね。

中山座長：事務局いかがですか。はい。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：酒井です。年度の当初にも学校から計画を出していただいて、当初 90 時間を出してくださいってことで各学校に、計画を出していただいて、ほぼ 90 時間ぐらいの計画を出していただいたんですが、先ほど言ったように、県の補助金の方が減少になったということで、先日 60 時間に修正してくださいっていう、御連絡をさせていただいたかと思うんですけども、そこで新たな計画を出して今回ほぼ皆さん 60 に近い数字で出してきて、そこで全部チューターを割り当てているので、何かの理由で、急に学校行事が入って中止したとかいうことがない限り、余るってことはおそくないんじゃないかなと思います。

永井副座長：ありがとうございます。いや何でこんな話をするかっていうと、実は私今学園の森なんですけど、この未来塾以外に学校独自で、保護者の御理解いただきながら、学森塾っていうのをやってるんです。それは筑波大がやっぱり近くにあるものですから、筑波大の学生を未来塾みたいな形で呼んで、それで、放課後の学習支援やってもらってですね。なので、この未来塾だけじゃなくてプラスアルファで学校独自で進めてます。そのぐらいこの地域の方が、子供たちを見ていただけるっていうのは、非常に教育活動上、メリットが多いように私は思ってます。さらに、そういった中でチューターさんをやってくださってる方は、教員免許なんかを持ってる方もいらっしゃるんですよ。今、学校現場も非常に教員不足だっていうのは、いろんなところで騒がれているかなと思うんですが。実は前谷田部東に勤務しているときは、その学習チューターを

夏休みやってくれた方で、教員免許を持ってる方が、年度の後半ですかね。教員が不足してしまったときをお願いしたら、学校現場の方で教鞭をとっていただいたなんてこともあります。子供たちとやっぱり少し関係ができてなっていたいたんで私たちもすごく安心してお願いした面もありました。いろんな面で、やっぱりプラスになるような事業だと思うので、できるだけもう予算はね、もうしょうがないところだと思うんですけども、どの学校でもうまく活用できればなあなんて本当に思っているところです。感想みたいになってしまいましたが以上です。

長谷川委員：私は高崎学園のCSの地域学校協働活動推進員をしておりまして、実は、そうなんだ、谷田部東もなんだって今ちょっと思ったんですけども、高崎学園も去年度から私も含めてあともう1人の先生と一緒に学習支援をいたしました。2月までしまして、やはりそこも、とても好評で、今年も高崎学園で始まったばかりです。今年の9年生も早くももう、20人超える理科室が満杯になるくらい。昨日と一昨日と参加してくださいまして、最初の日は、とてもはしゃいでしまったんですけども、そこでちょっと喝を入れまして、昨日はとても静かにやってくれたんです。私たちの地域は、塾がないんですね。多分、進研ゼミなんかで、通信で頑張ってる子供たちが多いのかなと。地域的にちょっと塾に乏しいところですので、本当に地域の力が必要だなと思うところです。今お話を聞いていまして、60時間とか90時間とか、これはチューターの人数と、日数で掛けて出していると思うんですが、私自分で肌感覚でチューターが、その1回1回にこんなに要らないなって思うことがよくあります。子供たちの時間を削ってはいけないなと思ってます。やる気のあるチューターが、その日1日しっかり2時間なり3時間なりをこなしてくれるチューターが必要だなと思ってます。夏休み期間中に3時間だったのを2時間にするのは、ちょっと違うかなっていうふうに、思っています。だからこちら辺で、学校の先生方がいろいろ組合せを考えていただいて、やっていただければ、チューターが忙しくな

るのは、大いに結構なんじゃないかなと、子供たちの時間を削ってしまうのはちょっとかわいそうかなって思いました。

中山座長：他、倉持委員どうぞ。

倉持委員：2つあるんですけども。まず1つ先ほど長谷川委員が、もうすでに今年度始まっているということをおっしゃられたんですけども、このスケジュールを見ると、事前オリエンテーションが7月1日ってあるんですけども、こういった日程で、いいのかなというのが、まず1つです。

それから2つ目が、予算が厳しくなっているということでこれは何も令和8年度に限ったことじゃなくて、今後どんどんさらに予算は厳しくなってくるというのは予測される場所なんですけども、先ほど副座長からもおっしゃられたように、学校独自でいろいろそういった支援をやっているところはありますし、課題とかを見ると、学習支援が必要な生徒への参加促進が課題。確か去年も同じような課題があったと思うんですけども。予算が厳しい中で、一律どの学校も同じような希望を出してくれということじゃなくて、ある程度重点を絞った事業展開をしていくことも考えるべきじゃないのかなというふうな気がしたんですけども。その辺のお考えをお聞かせください。

中山座長：事務局、いかがですか。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：酒井です。1つ目の6月実施の学校なんですけども、高崎中は地域と学校の連携事業の予算でやっていただいています。なので、未来塾とは、予算とか仕組みがまた違う形で実施していただいています。

倉持委員：一般的には7月1日のこの日程で問題ないということですね。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：実は他の学校でも、6月に中間テストがある学校が、ぜひ、6月に未来塾を実施したいという学校がありました。そこは前年度のチューターさんに募集をかけました。今年度の募集を締め切る前だったので、前年度のチューターさんに声をかけて、引き受けてくれる方お願い

して実施しています。

事務局（松橋係長）：一応補足として、7月1日のオリエンテーションは主に今年初めてチューターをやる、大学1年生とかが中心のオリエンテーションなのでベテランの方は、参加しないでもう現場にダイレクトに行っていただくということが多いです。

中山座長：倉持委員よろしいですか。

倉持委員：そうなのかと思いました。

中山座長：その他どうですか。はい。

岡田委員：岡田です。今、自分長女が今高校2年生で長男が中学、8年生なんですけども、長女のときは多分予算があったので、夏休みのときに、全員参加だよっていう形で、未来塾の方、だからみんな行くから行くよって形ができて、今長男の方は、テスト前になっていう形になってくるので、部活もあるとかそういう形でのやっぱりちょっと参加率が落ちちゃってる。今後時間が減ってくと夏休み集中して、3日間、3時間とかそういうのは難しくなってくるので、今、各学園でやられているようなテスト前、今の時期から、ちょっと1、2日やるって形態が増えてくるっていうことをやっぱ見越していくと、やっぱスケジュールの方やっぱ前倒していかなきゃいけないのかなって7月1日だとちょっと遅いのかなってのもありますし。

あと参加促進でやっぱりちょっと、自分の息子から聞くとやっぱり友達が出るからとか、そういった意見がやっぱり多いので、やっぱみんなが出るっていう雰囲気づくりっていうのもやっぱり大事なかなと思いますので、残り7割近くの生徒さんたちがやっぱ参加できるように、そういったものもちょっと、やっぱみんな出た方がいいね、楽しいから出たほうがいいよっていう形で学校にそのまま1時間余計にいただけだからとか、そういった、夏休みは来るよりは参加しやすいのかなあとはあるんですけども、ちょっとその辺も含めて、ちょっと年度の計画をちょっと早めにしていって方がいいのかなってちょっと感じた

ところです。以上です。

事務局（柴崎社会教育主事）：はい。ありがとうございます今年度4月13日の段階で筑波大の大学生たち、1年生で教職をとる子たちへのいわゆる教職ガイダンスということでこのつくば未来塾の事業の説明をさせていただいたたんすけども、確かにその時点で、もうオリエンテーション何月何日になるよっていうのをお伝えできるように、今年度のうちから来年度の計画ちょっと早めに立てて、対応できるにすればもしかしたら、いろんなところでもう少しスムーズに回るかなと思いますので、改善はしていければと思います。ありがとうございます。

中山座長：増沢委員お願いします。

増沢委員：はい。増沢です。先ほどからですね、学習支援が必要な生徒さんね、こういった方の参加が乏しいかなあというふうな、お話が出ていたかと思うんですけれども、すでに実践されていることもあるかもしれませんけれども、私がお話聞かせてもらいながら思ったことを3つほどお話させてもらいたいなと思っています。

1つはですね、やはり参加されなかった子供たちの声を聞いてみるっていうのも面白いかなあと思っておりまして。参加した人の声っていうのはね、当然、アンケート等で集められるんですけど。参加しなかった子はなぜ、参加しなかったのかなあっていうところを、こう聞いてみるっていうのも、とても大事なことなのかなあと思ったのが1つですね。

2つ目は、ハードルを下げるのがやっぱり大切かなあと思っていて、例えば1人で集中してやりたい子、お友達がいるから来るって子もいると思うんですけど、逆にお友達に、何て言うかな、一緒に付き合わなくちゃいけなくて集中できないっていう子も、いるかもしれないので、1人で集中できるスペース図書館みたいに集中してやれるスペースとか、反対に、グループでワイワイこーやって解くのかな、ああやってやるのかなって話し合いながらやれるスパー

スとか、ちょっとそうやってスペースなんかも、子供たちのニーズとか目的に合わせて、スペースを変えてあげられるといいのかな、選べるようにしてあげるといいのかなと思いました。

最後3つ目はですね、アナウンスの仕方も大事なあとを思っていて、先生の声かけによるところが大きいのかなと思うんですけど。例えば学習習慣まで、どうしてもこう支援がたどり着かないっていうところのお話もありましたけど、勉強方法を教えてもらうっていうのもありだよとか、夏休みの計画づくりを一緒にやってもらうのもありだよとか。何かこう、学習習慣とか学び方につながるような、そんなお話も聞かせてもらったらいんじゃないのっていうふうに、投げかけたりとか、参加した子たちのやって良かったの声を教えてあげるとか、先ほどお話があったように、お友達の輪が増えるよとか、結構ワイワイやって、楽しく学べるよとか、なんかそんな子供の実際の声が届けてあげると、図書館みたいながっちりやるような感じじゃないんだな塾とは違うんだなみたいな。そんなイメージを持ってもらえると、また違うのかなと思ったりもしました。ちょっと感じたことでもうすでにやられてることも多いのかもしれないけれども、お話をさせていただきました。ありがとうございました。

中山座長：取組のきっかけ、長谷川さん言われたように、本当は必要な子が、参加してない。本当にね、それをどういうふうに誘うかということが大切かなと。先ほど家庭ということを書いたんですけどそれ以外に友達ですよね。友達から誘ってもらうような、プログラム、或いは先生から、ちょっとね、見てみようよというふうな誘い。場合によっては、何か、なかなか難しいかなと思うんですけど本当に必要な子だったら、先生と一緒についていってあげて、1回参加したり、見たりしたらっていうふうな声掛けも必要なのかなというふうにも感じました。その他、いかがでしょうか。どうですか長谷川委員、何か。

長谷川委員：今のお話本当に頷きながら伺いました。私、去年度、多分7校か8校行ってまして、学校にもいろいろな色があって、先生がお付きになる学校

と、もう本当に学習チューターに任せてくれる学校と、もういろいろあって、どこも居心地がいいんですけども。最近行ってきたんですけども、そこはもう私も2年度目ですかね。今年、2年度目。そうすると学校の先生方も相談してくれるんですね、どういうふうにしたらいいでしょうねっていうふうに。すると私もこう言われるとじゃあ言っちゃうよと思って。何でも、忌憚なく意見を言ってくるんですが、やっぱり騒がしい子たちと集中したい子たちがいますと、だから、図書室だろうがなんだろうが騒ぐ子は騒ぐので、その辺りをちょっと配慮していただけると、すごく真剣にやりたい子はいるので、部屋を分けてくださいと。チューターが意見を言いやすい学校っていうのはあります。

たまたま昨日高崎中に行って、高崎中の子と話してたのが、なるほど思ってたんですが、もっともっとこれやってくださいって教頭先生に言っていました。子供が残って、「もっとやりたい」って。お家でやればいいでしょうっていう話をしてたんですけど、お家にはスマホがあると、図書室にもスマホを持っていってしまうと、図書館にもね。そうするとスマホがあっては集中ができない。どうしても見ちゃうから。でも学校は、スマホを持っていけないので、諦めると。だから学校でやると。だから学校でやる機会をもっともっと作って欲しいということを昨日女の子が言ってて、なるほどなあと思って、スマホのない場所に自分を置かなければいけないっていうことに気が付いたんですね。9年生になってようやく。なので、だから先生、これはやっぱり、チューターが少なくてもいいから、場所を作ってあげましょうよっていうのを昨日ちょうど教頭先生にお話してきたんですけども。チューターと学校の先生方との風通しの良い環境というのが一番いいんだらうなって。そのためにやっぱり先ほどありましたけども、同じ人が同じ学校にずっと行かれるっていうのは、私もすごい賛成で、いろいろな意見も言いやすいし、顔だけしか分からなくても、「長谷川先生来てくれた。」みたいに、喜んで迎えてくれるお子さんも増えてくるので、同じ人が同じ場所についていうのは、大賛成です。

中山座長：はい。スマホの話出しましたが、スマホの利用時間、高校生が6時間超える、6時間40何分だったか。中学生でも5時間。小学生でも4時間台。勉強する日もあるのかって。寝る暇あるのかってというようなデータでございました。スマホの利用時間ってのは非常に長い。子供たちもやっぱり使いたいこれね。AIに聞きたい。やっぱりちょっと調べる。多分先生方もそうですね。何か調べたいときに、AIにちょっと聞けばすぐ答えが出てくる。自分の頭を使わなくなる原因かなというふうに思いますけども。スマホのない学校が一番素晴らしいかなというふうに私自身は思っております。

時間の方だんだんせまってきたんですけども、何かこれは言っておきたいという方いらっしゃいますか。

永井副座長：違った視点なんですけれども、学校の先生方の働き方改革にもつながってるんですよ。我々若い時分は中学校に勤務したときなんかは、部活動なんかはもう毎日のように放課後やってたんですけど。部活動やりながらも、学習面で課題のある子たちを例えばテスト前は見てあげたいとか。そうすると、部活動がない日は、その子たち集めて、教員が補習をしたりとか、そんなことやってました。それが今、例えば、こういった形で、外部の方地域の方が来てくれて、そういったことをしていただければ、その分職員にゆとりができるんですよ。それで子供たちのある程度の学力の保障にもなっていく。そういった面では子供たち、指導される方のメリットもあるだろうし、教員側から良い評価が出てるっていうのも、もちろん子供たちの学力の向上っていうのもあるでしょうけど、そういった面もあるんじゃないかと思うので、ぜひ、こういった事業が、どんどん削減されないでいってければなという思いがあります。以上です。

中山座長：はい。ありがとうございました。先ほどのちょっとデータのね、高校生が6時間44分だそうです。中学生が5時間24分。小学生でも3時間54分。多分、その中でタブレットの授業もあるから、インターネット利用時間ってこ

とで出た統計ですけども、それにしても多いなという気はします。つくば未来塾の活動をどんどん進めていただければと、予算厳しい中で、69万マイナスは結構厳しいかなと思いますけども、超過してもいいんじゃないかなというふうには思いますので、頑張ってくださいということで今日の議事の方、終わらせていただきたいと思います。座長の方は、降ろさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

7 その他

事務局（松橋係長）：中山座長ありがとうございました。最後にその他として、第2回つくば未来塾運営会議の予定をお知らせいたします。第2回につきましては、令和9年3月上旬を予定しております。会場や時間など詳細については、期日が近づいたらお知らせいたします。

8 閉 会

事務局（松橋係長）：以上をもちまして、令和8年度第1回つくば未来塾運営会議を閉会いたします。皆様どうもありがとうございました。

令和 8 年度 第 1 回つくば未来塾運営会議 次第

日時：令和 8 年(2026 年) 6 月 18 日(木)

午前 10 時～

会場：つくば市役所 501 会議室

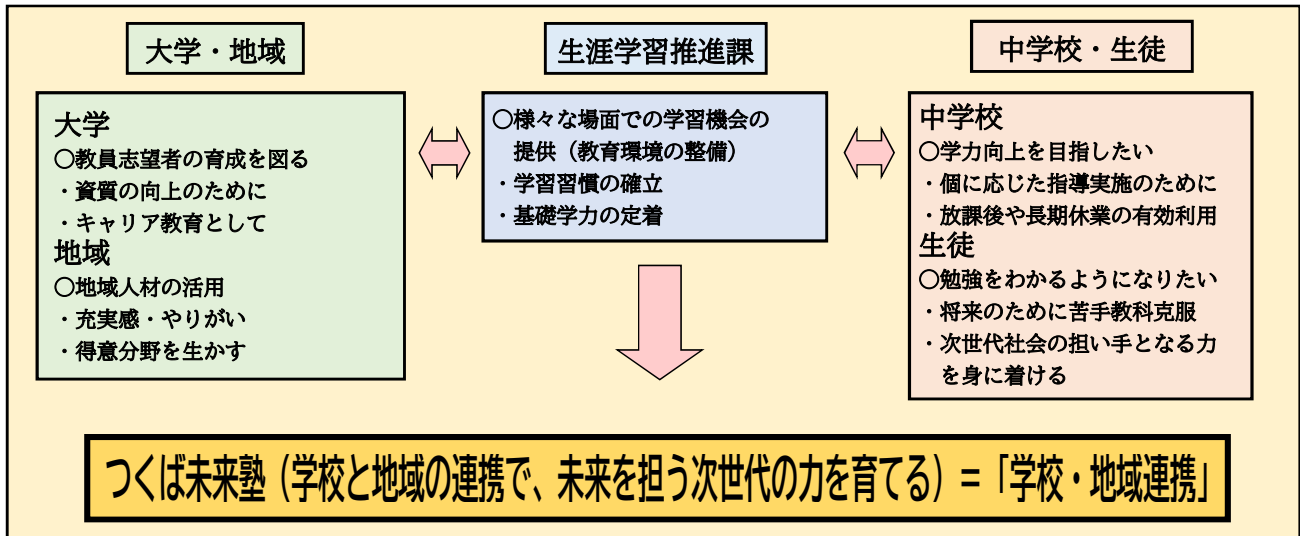
- 1 開 会
- 2 主催者挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 委員及び職員紹介
- 5 座長及び副座長の選出
- 6 議 事
 - (1) つくば未来塾事業概要
 - (2) 令和 7 年度実績報告
 - (3) 令和 8 年度事業計画
- 7 その他
- 8 閉 会

つくば未来塾事業概要

1 目的

つくば市内及び近隣地域の大学や地域の協力の下、参加する大学生、大学院生や社会人の方などを学習チューター（学習支援員）としてつくば市立全中学校及び義務教育学校（後期課程）に派遣し、学習指導・支援にあたることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図る。

2 つくば未来塾概要図



3 対象

つくば市立中学校及び義務教育学校に通う、7年生から9年生までの生徒

4 学習チューター対象者

- (1) つくば市内及び近隣地域の大学生または大学院生（教育実習生を含む）
- (2) 地域住民（社会人等）

※謝礼 2,200 円／時間（交通費込み）。必要資格、年齢制限等はなし。

※実施に当たっての注意事項や心構えを説明する事前オリエンテーションを 7 月 1 日（水）に実施する。

5 実施内容

各学校に派遣された学習チューターが、中学校・義務教育学校職員とともに、5教科（国・社・数・理・英）を中心に、学習の指導及び助言にあたる。

6 実施時期及び実施時間

- (1) 夏季休業中に 1 日 2 ～ 3 時間程度
- (2) 7 月及び 9 月～ 1 月末までの平日放課後に 1 日 1 時間程度

※実施日、実施時間は学校により異なる。

令和7年度 つくば未来塾事業実績報告書



つくば市教育局 生涯学習推進課

令和7年度つくば未来塾事業実績

1 実数と経年比較

①実施回数・実施時間

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
A	実施延べ回数（回）	200	219	194	161	123
—	実施延べ時間（時間）	377	379	348	308	209

②学習チューター関連

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
—	学習チューター延べ配置時間（時間）	1,493	1,550	1,498	1,380	907
B	学習チューター協力延べ人数（人）	860	852	781	685	501
—	学生協力延べ人数（人）	320	400	344	295	272
—	筑波大生（筑波大院生）延べ人数（人）	241	315	287	232	224
—	他大学生延べ人数（人）	79	85	57	63	48
—	一般協力延べ人数（人）	540	452	437	390	229

【参考】学習チューター登録内訳（実数）

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
C	学習チューター登録数（人）	152	165	171	176	177
—	うち筑波大生・筑波大院生（人）	72	85	79	79	94
—	うち他大学生（人）	14	16	16	25	24
—	うち一般（人）	66	64	76	72	59

③生徒関連

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
—	中学校・義務教育学校在籍数（人）	6,689	6,622	6,584	6,608	6,694
D	参加生徒延べ人数（人）	7,863	9,150	9,558	8,926	8,248
E	参加生徒実人数（人）	1,803	1,824	—	—	—

2 平均値と経年比較

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
B/C	チューター1人当たりの活動回数	5.7	5.2	5.2	4.6	3.9
B/A	1回当たりのチューター数	4.3	3.9	3.9	4.0	4.3
D/B	チューター1人当たりの担当生徒数	9.1	10.7	10.7	12.2	13.0
D/E	参加生徒1人当たりの参加回数	4.4	5.0	—	—	—
D/A	1回当たりの参加生徒数	39.3	41.8	41.8	49.3	55.4

3 予算執行率

令和7年度つくば市一般会計予算 つくば未来塾に要する経費

歳入

節	摘要	交付決定額	交付確定額
社会教育費補助金	学校・家庭・地域連携協力推進事業 (地域未来塾) 補助金	2,726,000	2,691,000

つくば未来塾事業は、学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（文部科学省）、地域の教育支援体制等構築事業費補助金（茨城県）を受けて実施しており、補助対象経費に対して、国、県がそれぞれ3分の1を負担し、合計3分の2の割合で補助を出している。

当初予算に基づいた市の交付申請に対し、令和7年8月付けで県生涯学習課より補助金額2,726,000円の交付決定があった。最終的な交付確定額は、市の実績報告に基づき、令和8年度当初に確定する。

なお、当該補助金の交付については、自治体でコミュニティ・スクールを導入していることが要件となっている。

歳出

節	細節	摘要	当初予算額	決算額	予算執行率
報償費	報償金	指導員謝礼	4,389,000	3,556,300	81.03%
		未来塾運営会議委員謝礼	30,000	24,000	80.00%
旅費	費用弁償	費用弁償	2,000	148	7.40%
需用費	消耗品費	事務用消耗品	216,000	189,017	87.51%
		テキスト代	216,000	189,789	87.87%
役務費	保険料	損害保険料	79,000	78,100	98.86%
合計			4,932,000	4,037,354	81.86%

4 執行率の推移

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
予算額	4,932,000	5,187,000	4,581,300	3,721,000	2,910,000
決算額	4,037,354	4,031,953	3,757,541	3,071,952	2,265,630
執行率	81.86%	77.73%	82.02%	82.56%	77.86%

1 「生徒の学習上のつまずきの解消」に関して

生徒からは、「以前より内容が理解できるようになった」「わからない部分をその場で質問できた」といった回答が多く見られ、基礎的・基本的内容の定着に一定の成果が見られた。特に、少人数での個別対応や途中までの式を丁寧に扱う支援が効果的であった。教職員からも学習チューターによる支援は生徒のつまずき解消に有効であるとの評価が多く寄せられた。

一方で、学習習慣が十分に身につけていない生徒や自ら質問することが難しい生徒への支援の在り方については、引き続き工夫が必要であることも明らかになった。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R 6～)	R 7	R 6	R 5
生徒	参加する前よりも学力が身に付いたと思うか。	これまでわからなかった問題がわかるようになったか。	80.7%	82.0%	81.3%
教職員	生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思うか。	つまずきの解消、学習習慣の定着につながったか。	88.0%	89.6%	82.2%

2 「学習意欲の向上」に関して

つくば未来塾への参加を通して、多くの生徒が集中して学習に取り組むことができた」と回答している。「家よりも集中できた」「友達と一緒に取り組むことで意欲が高まった」など、学習環境の整備が意欲向上に寄与している様子がうかがえる。

また、「参加してよかった」「今後の学習につなげたい」といった前向きな意見も多く、学習への動機づけとして一定の役割を果たしていることが確認できた。

しかしながら、意欲の高まりが学習習慣のまで十分に結びついていない面も見られた。短期的な取組であることから、継続的な支援体制との接続が今後の課題である。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R 6～)	R 7	R 6	R 5
生徒	集中して、又は、楽しく学習を進めることができたか。	集中して意欲的に学習を進めることができたか。	89.7%	88.9%	93.8%
	取り組んだ教科が以前よりも好きになったか。		60.3%	61.9%	73.2%
	つくば未来塾に参加してよかったか。		90.8%	90.4%	91.0%
	これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになったか。	学習習慣が身に付くきっかけになったか。	75.6%	75.2%	85.5%
教職員	つくば未来塾を実施してよかったか。		85.1%	84.9%	74.7%

3 「学校と地域の協働連携」に関して

本事業は、地域人材である学習チューターの協力のもと実施している。学習チューターからは、「生徒の成長を間近で感じられた」「自身の学びやキャリア形成につながった」といった声が多く寄せられ、地域にとっても意義のある取組となっている。

教職員からも、教員以外の視点による個別支援が生徒にとって有効であることの評価が高く、学校と地域が連携することで教育活動の充実が図られていることが確認できた。

今後も学校と地域が相互に信頼関係を深めながら、生徒の学びを支える体制づくりを継続していくことが重要であると考えている。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R 6～)	R 7	R 6	R 5
生徒	先生や学習チューターに教えてもらってよかったか。	学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか？	73.6%	75.9%	87.6%
教職員	学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だったか。	教員以外による学習支援は、生徒にとって有効だったか。	96.3%	96.3%	89.0%
学習チューター	生徒たちは集中して学習に取り組んでいたか。		90.2%	97.6%	98.9%
	学習支援はご自身のキャリアアップにつながったか。	ご自身の学びや成長につながりましたか。	93.9%	97.7%	91.6%
	学習支援を通じて生徒の喜ぶ姿に出会えたか。	生徒と楽しく交流できましたか。	100.0%	99.2%	97.8%
	学習支援にやりがいを感じたか。	参加してよかったですか。	95.8%	91.4%	98.9%
	今後もつくば市の事業において、協力していただけるか。		93.9%	100.0%	100.0%

4 課題と対応

今年度の成果を踏まえ、以下の点が今後の課題として挙げられる。

- ・学習支援が必要な生徒への参加促進
- ・学習チューターの指導力向上と役割の明確化
- ・学校との連絡調整を含めた運営体制のさらなる改善

これらの課題に対して、対象生徒の明確化や事前研修の充実、継続的な実施方法の検討等を進め、より効果的な事業運営を目指していく。

令和８年度つくば未来塾 事業計画

1 予算措置

(1) 歳出 (円)

科目	今年度当初予算額	昨年度当初予算額
報償費	4,400,000	4,419,000
旅費	2,000	2,000
需用費	432,000	432,000
役務費	0	79,000
合計	4,834,000	4,932,000

(2) 歳入

○地域の教育支援体制等構築事業費補助金（国及び県）

令和８年度県内示額：1,998,000 円（全市町村一律 35%程度の削減）

令和７年度交付確定額：2,691,000 円

2 学習チューター募集概要

- (1) 募集期間：５月８日（金）から６月５日（金）まで
- (2) 募集方法：市役所含む公共施設 38 か所に別添チラシを配布の上、ホームページ、広報紙で周知
- (3) 応募方法：つくば市ホームページ上の申込フォームで応募若しくは別添個人登録票を生涯学習推進課まで持参又は郵送
- (4) 募集状況：６月８日現在で、168 名の学習チューターが応募（昨年度比 16 名増）
- (5) 配置校の決定・周知：６月下旬
- (6) その他：欠員補充等のため、必要に応じて２次募集を実施

3 実施期間

７月 21 日（火）から 1 月 29 日（金）まで（別添：2026 年度 つくば未来塾事業実施計画を参照）※各学校から提出された実施計画を基に作成

4 事前オリエンテーション

学習チューターとしての心構え等を周知するため、事前オリエンテーションを開催予定

- (1) 開催期日・会場：7月1日（水） 筑波大学
- (2) 対象：学習チューター希望者
- (3) 周知内容：
 - つくば未来塾の概要
 - 実施の流れ及び留意事項
 - 当日の持参物等
 - 学習チューターの心構え等（当日の頭髪・服装等、注意すべき言動、個人情報への漏えい防止、欠席する場合の連絡等、注意事項全般）
 - 傷害保険について 等

5 事業実施後の評価・検証方法

以下の方法により、事業の効果を検証し、今後の事業運営にフィードバックさせる。

- (1) アンケート（生徒、学習チューター、教職員）
- (2) 訪問による聞き取り（生徒、学習チューター、教職員）
- (3) 生徒による毎日の振り返りの実施
 - チューターへの即時のフィードバック